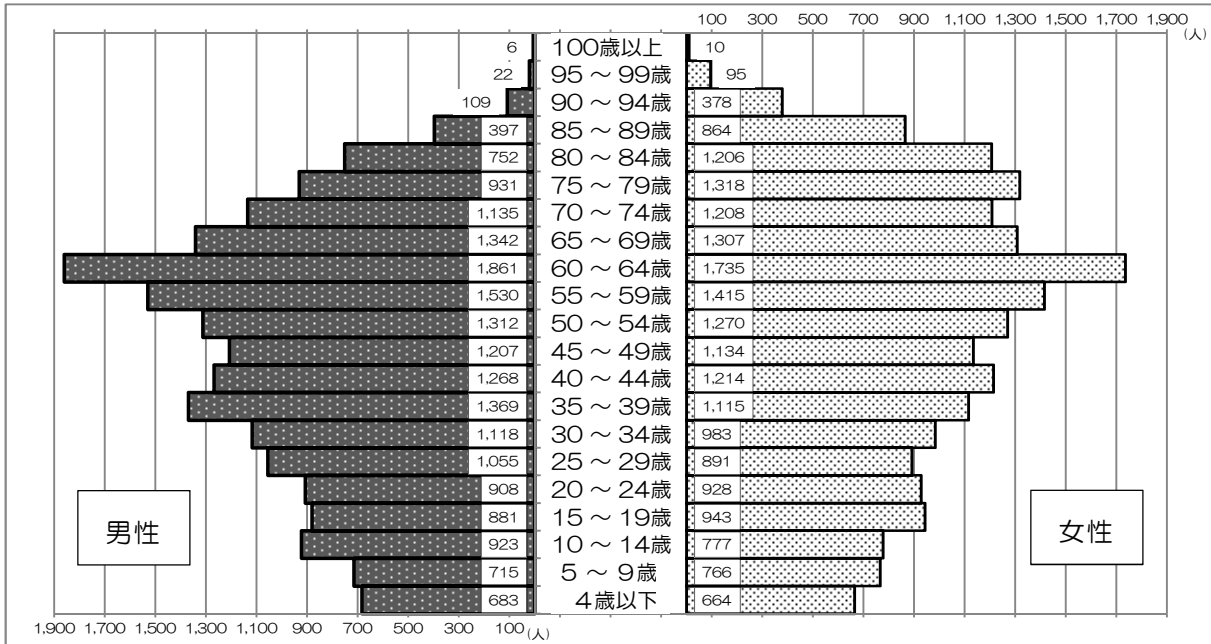


# Ⅱ 匝瑳市の現状

## 1. 人口構成について

匝瑳市の総人口は 39,745 人、65 歳以上の人口は 11,080 人となっています。高齢化率<sup>(注3)</sup>は 27.9%であり高齢化が進んでいます(図 1)。

図 1 匝瑳市の人口構成ピラミッド(住民基本台帳人口 平成 24 年 9 月 30 日現在)



(注 3) 高齢化率とは、65 歳以上人口が総人口に占める割合です。

## 2. 死亡の状況について

### 1) 主要な死因の状況

匝瑳市の死因の 1 位はがん、2 位が心筋梗塞などの心疾患、3 位が脳梗塞、脳出血などの脳血管疾患で、1 位のがんは全死因の 20%を超えています(図 2)。また、三大死因の死亡数を年次推移でみると、1 位のがんで毎年 100 人以上の方が死亡しています(図 3)。

図 2 匝瑳市の死因(平成 23 年)

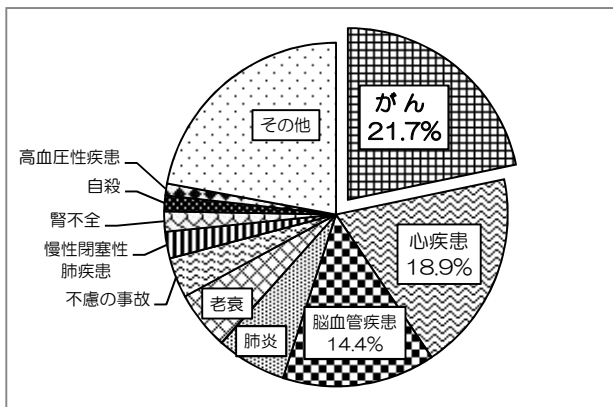
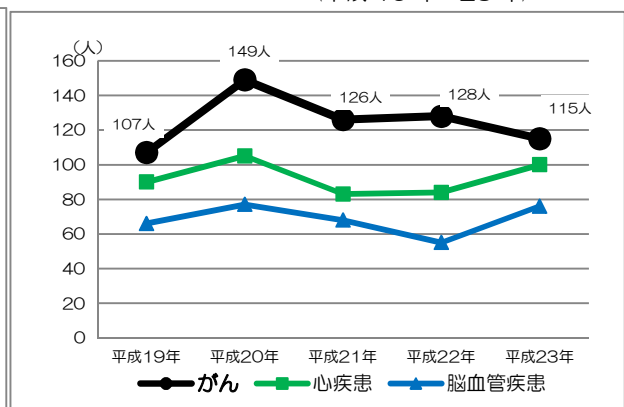


図 3 匝瑳市三大死因死亡数年次推移(平成 19 年～23 年)



## 2) 40歳以上65歳未満の死因の状況

40歳以上65歳未満の死因の第1位は、男女とものがんであり、2位とは大きな差になっています(表1)。

表1 匝瑳市40歳以上65歳未満死因別死亡数(平成19年～23年)

	1位	2位	3位	4位	5位
総数	がん 116人	心疾患(高血圧性を除く) 38人	脳血管疾患 27人	自殺 20人	不慮の事故 19人
男性	がん 64人	心疾患(高血圧性を除く) 31人	脳血管疾患 20人	不慮の事故 16人	自殺 12人
女性	がん 52人	自殺 8人	神経系疾患 8人	心疾患(高血圧性を除く) 7人	脳血管疾患 7人

## 3. がんによる死亡の状況について

### 1) 年齢調整死亡率

平成19年から23年までのがんの年齢調整死亡率を千葉県と比較すると、全年代では、女性は千葉県より死亡率が高い状況にあります(図4)。また、75歳未満では男性、女性ともに千葉県より死亡率が高い状況にあります(図5)。

図4 がんの年齢調整死亡率(平成19年～23年)

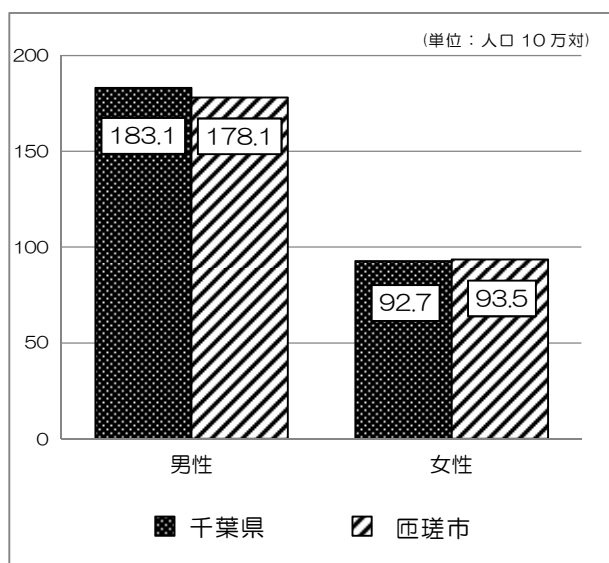
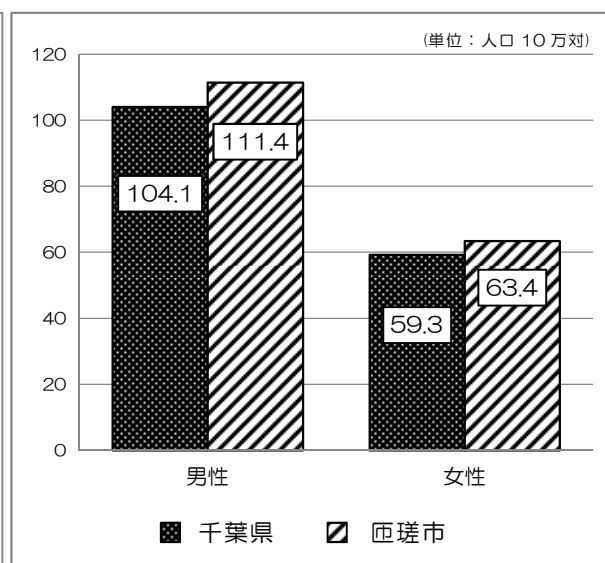


図5 75歳未満 がんの年齢調整死亡率(平成19年～23年)



がんの部位別年齢調整死亡率を比較すると、全年代で千葉県より年齢調整死亡率が高いものは男性では肝臓がん、女性では胃がん、肝臓がん、大腸がん、子宮がんであり、男女ともに肝臓がんが高いのが特徴的です(図6)。また、75歳未満のがんの部位別年齢調整死亡率では、千葉県より高いものは、男性では胃がん、肝臓がん、大腸がん、女性では肝臓がん、大腸がん、子宮がんです(図7)。

図6 主ながんの部位別年齢調整死亡率(平成19年～23年)

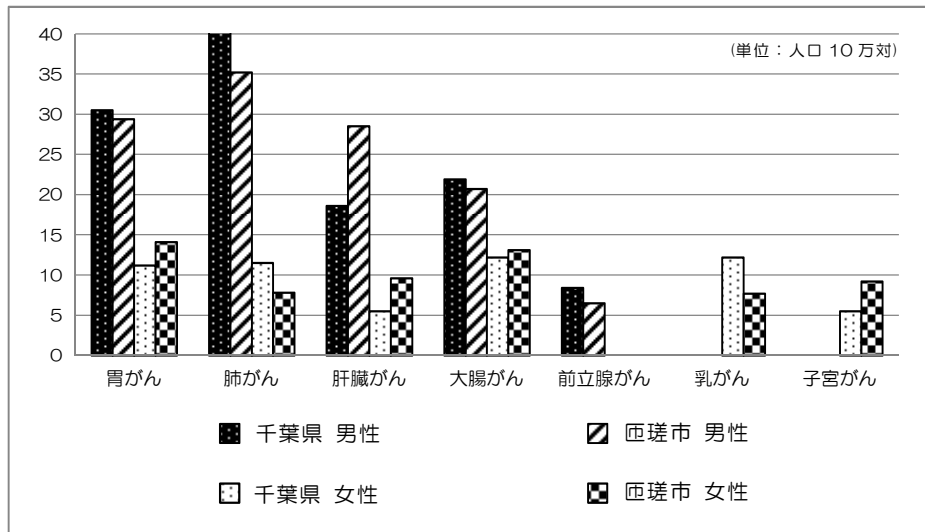
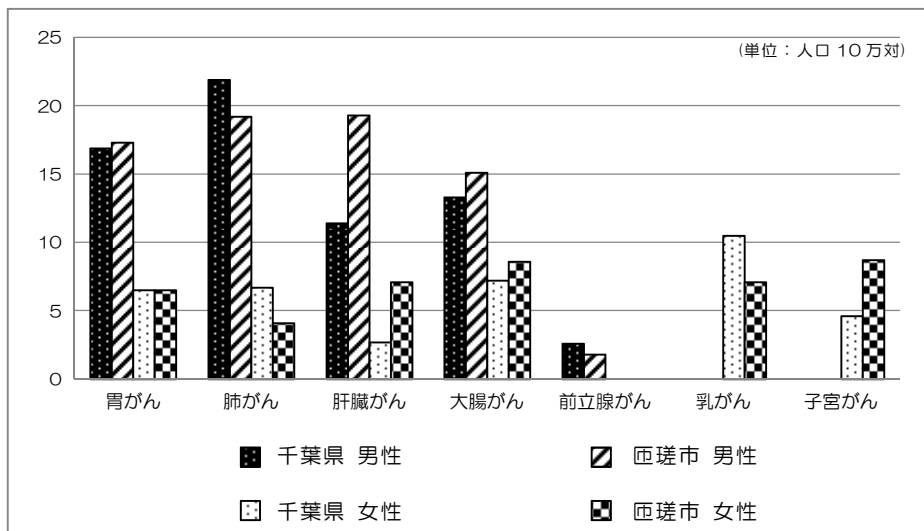


図7 75歳未満主ながんの部位別年齢調整死亡率(平成19年～23年)



## 2) がんの部位別死亡数

匝瑳市の平成 19 年から 23 年までのがんの部位別死亡数の上位 10 位までをみると、全年代の男女の合計では、胃がん、肺がん、肝臓がん、大腸がんの順になっています(図 8)。また、75 歳未満のがんの部位別死亡数では、肝臓がんが 1 位となっています。乳がん、子宮がんでは、死亡者のほとんどが 75 歳未満の女性です(図 9)。

図 8 がんの部位別死亡数上位 10 位(平成 19 年~23 年)

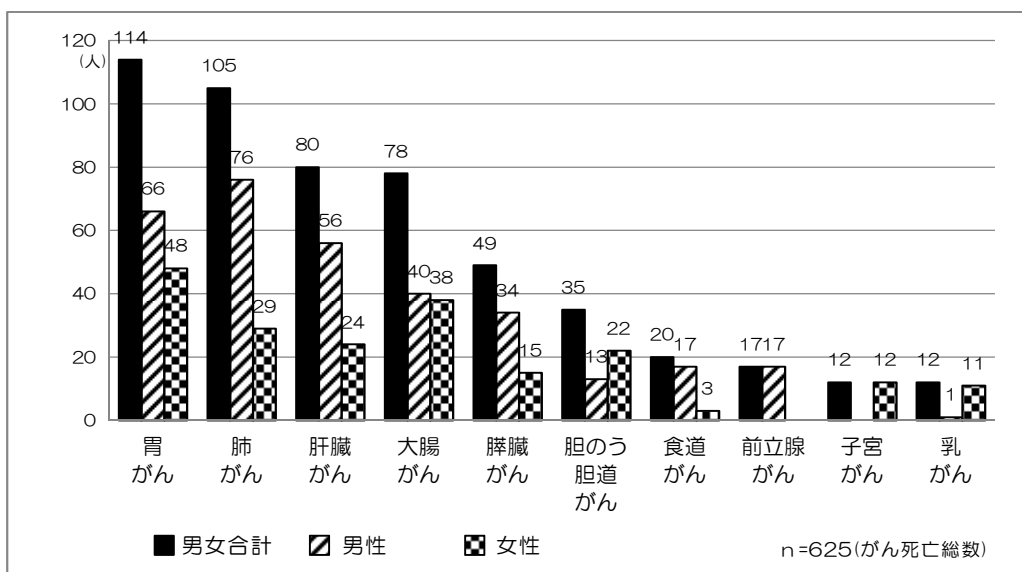
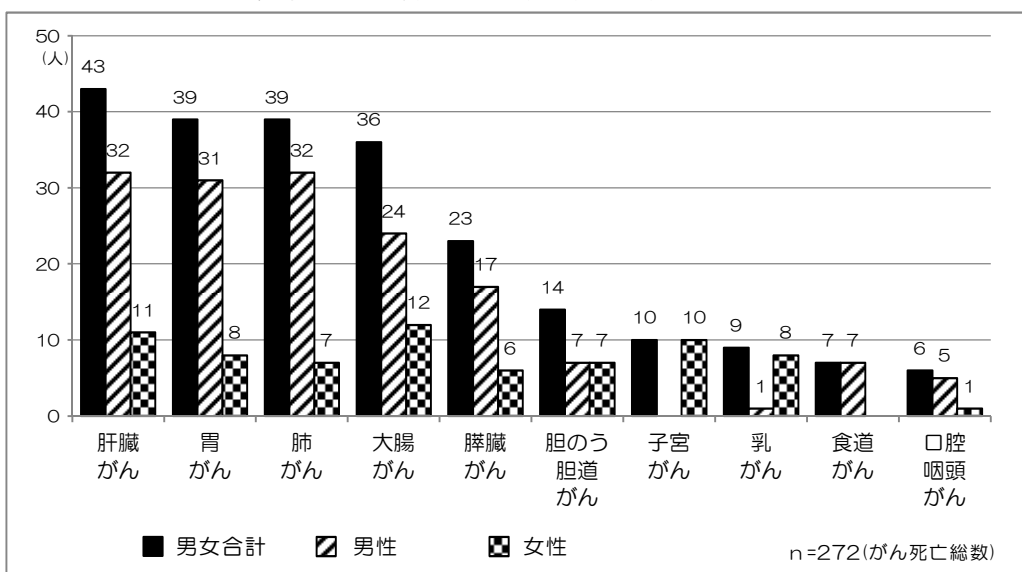


図 9 75 歳未満 がんの部位別死亡数上位 10 位(平成 19 年~23 年)



#### 4. がん検診の受診率について

各がん検診の受診率の推移をみると、男性は、受診率が20%以下のものがほとんどであり、横ばい傾向にあります(図10)。また、女性は乳がん検診、子宮がん検診については受診率の増加がみられていますが、他のがん検診については横ばいもしくは減少傾向にあります(図11)。男女ともに胃がん検診については10%台と低い受診率です。

図10 男性がん検診受診率 年次推移  
(平成20年～23年)

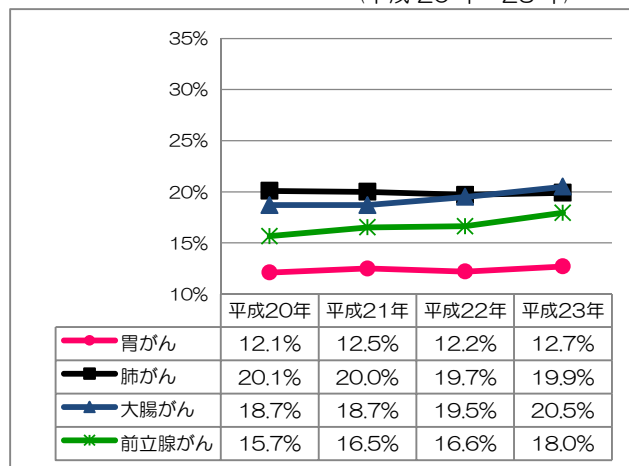
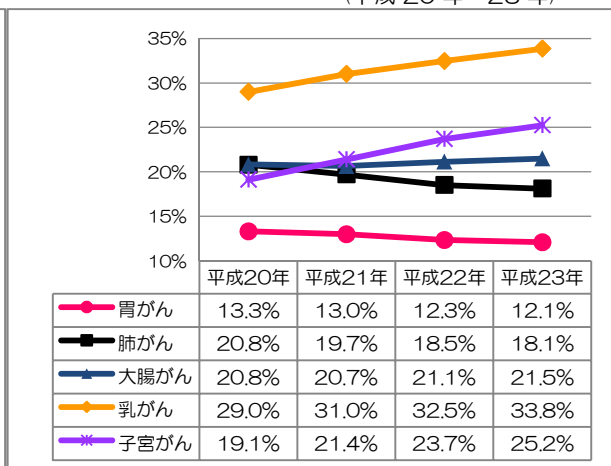


図11 女性がん検診受診率 年次推移  
(平成20年～23年)

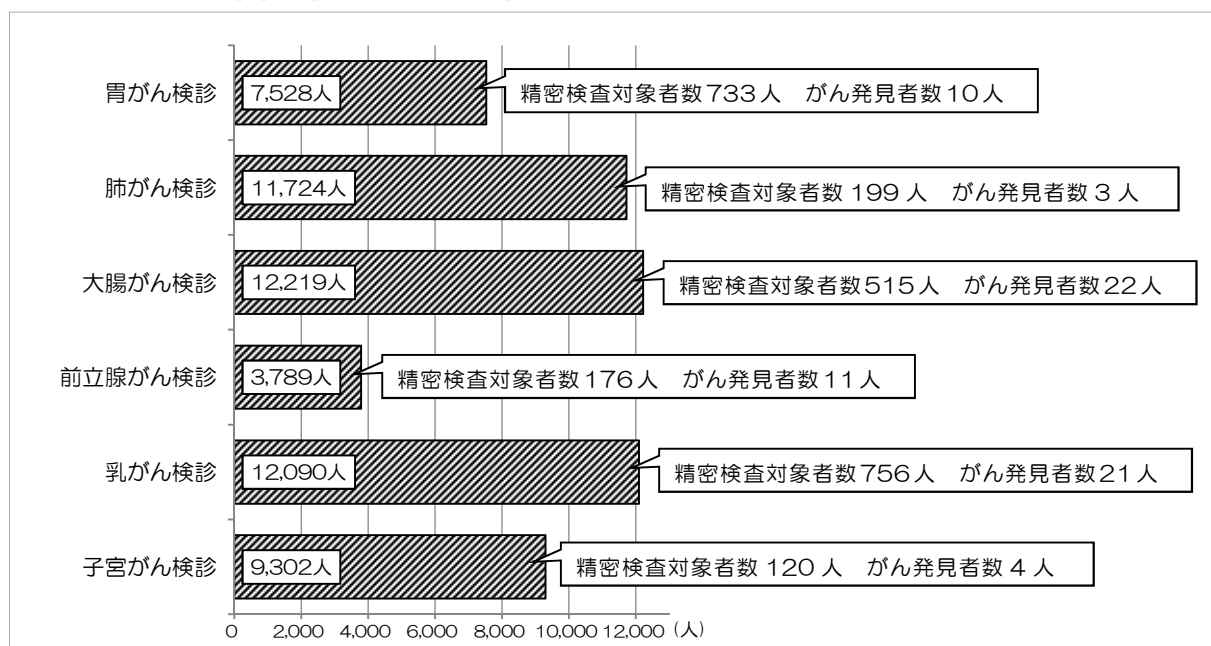


※胃がん検診、肺がん検診、前立腺がん検診を同日実施するようになった平成20年度以降について示しました。

#### 5. がん検診の受診者数とがん発見者数について

平成20年から23年までの各がん検診の受診者数と精密検査対象者数及びがん発見者数をみると、毎年がん検診においてがんが発見されています(図12)。

図12 がん検診受診者数とがん発見者数(平成20年～23年)

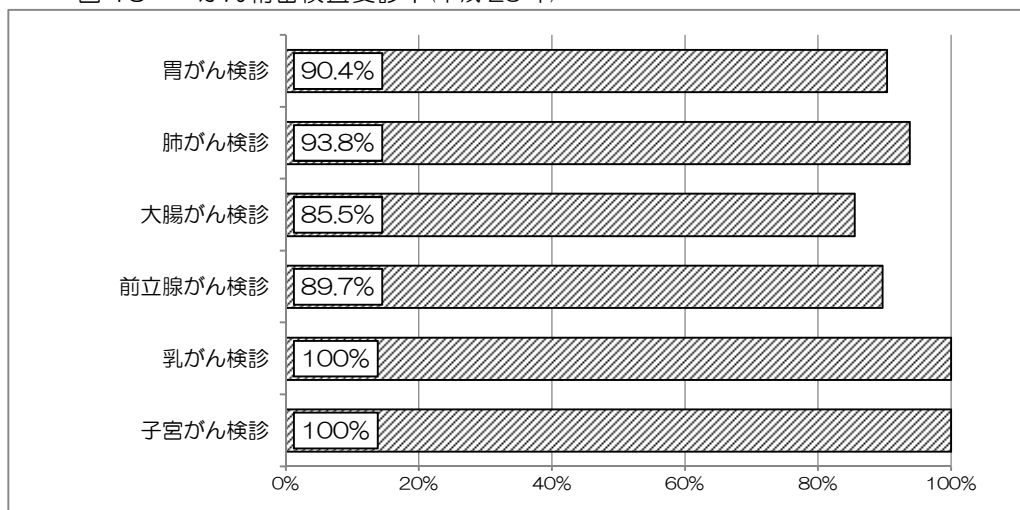


※胃がん検診、肺がん検診、前立腺がん検診を同日実施するようになった平成20年度以降について示しました。

## 6. がん精密検査受診率について

がん検診で精密検査の対象になった人のうち、精密検査を受診している割合については、乳がん、子宮がんは受診率 100%ですが、他の検診については全数把握し受診勧奨しているものの、未受診者がいる状況です(図 13)。

図 13 がん精密検査受診率(平成 23 年)



## 7. がん検診の実施状況と現在行っている取組について

### 1) がん関連検診の実施状況

匝瑳市では下記(表 2)のがん検診を毎年実施しています。電話等での申込制をとっており、一度受診することで毎年検診案内通知を送付しています。

表 2 がん関連検診一覧(平成 24 年度現在)

	対 象	検 査 内 容	検診方法	料 金
胃がん検診	40 歳以上の男女	胃部レントゲン検査	集団検診	900 円
肺がん検診	40 歳以上の男女	胸部レントゲン検査	集団検診	無 料
大腸がん検診	40 歳以上の男女	便潜血検査	集団検診	500 円
乳がん検診	30 歳以上の女性	マンモグラフィ検査	個別検診	300 円
		超音波検査	集団検診	
子宮がん検診	20 歳以上の女性	細胞診(不正出血等高リスク者は体部細胞診も実施)	個別検診	個別健診 1,000 円
			集団検診	集団健診 600 円
前立腺がん検診	50 歳以上の男性	前立腺特異抗原検査	集団検診	300 円
肝炎ウイルス検査	40 歳以上の男女	B 型 C 型肝炎ウイルス検査	集団検診	無 料

## 2) がん検診受診率向上の取組

通 知	申込者以外にも、節目年齢の人に個別通知を行っています。
無料クーポン券	平成 21 年度から乳がん検診は 40 歳から 60 歳までの 5 歳刻み、子宮がん検診は 20 歳から 40 歳までの 5 歳刻み、平成 23 年度から大腸がん検診も 40 歳から 60 歳までの 5 歳刻みで無料クーポン券を送付しています。
検 診 日	各検診ともに土日に検診日を設けています。
周 知	<p>がんの知識やがん検診などについてのチラシを作成し、乳幼児健康診査や運動教室等において配布しています。</p> <p>保健推進員等の研修会、各事業などで、がんの知識やがん検診についての説明を行っています。</p> <p>農業まつりなどのイベントや健康をテーマとする学習活動において、がん予防の視点を取り入れながら、がん検診の啓発を行っています。</p>
精 密 検 査	<p>精密検査受診者に対し、検査費用の一部助成を行っています。</p> <p>医療機関から受診結果の返信がない方については、電話による把握を行っています。また、未受診である場合は、電話もしくは家庭訪問にて受診勧奨を行っています。</p>
がん検診未受者の把握	大腸がん検診無料クーポン対象者で検診未受診者に対し、未受診の理由等の把握のためアンケートを実施しました。アンケート結果をもとに受けやすいがん検診の体制づくりに努めています。
専門委員会	毎年度、匝瑳医師会の総合健康診査専門委員会腫瘍部会に諮り、今後の取組等について検討を行っています。

## 8. 匝瑳市がん対策推進計画策定のためのアンケート結果から得られた現状について

### 1) がん検診の受診状況

#### ①職場や医療機関での受診も含めたがん検診受診率

市のがん検診の対象に該当する年齢階層について、職場や人間ドック等を含め、各がん検診を過去1年以内に受けた人の割合をみると、国が目標としている受診率50%に達していない階層があります。

胃がん検診、肺がん検診では、男性に比べ女性の受診率が低く、大腸がん検診は、男女ともに受診率が低い状況です（図14-1）。前立腺がん検診の受診率は、28.6%と大変低く、乳がん検診では30歳代、子宮がん検診では20歳代の受診率の低さが目立ちます（図14-2）。

図14-1 がん検診を1年以内に受けた人の割合（胃・肺・大腸がん検診）

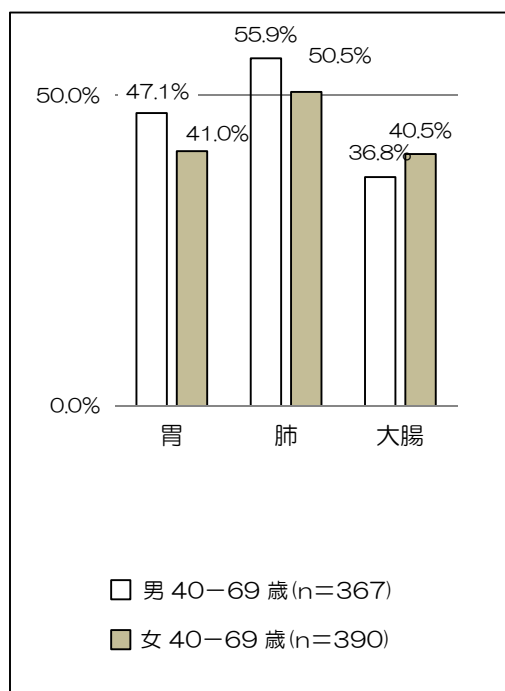
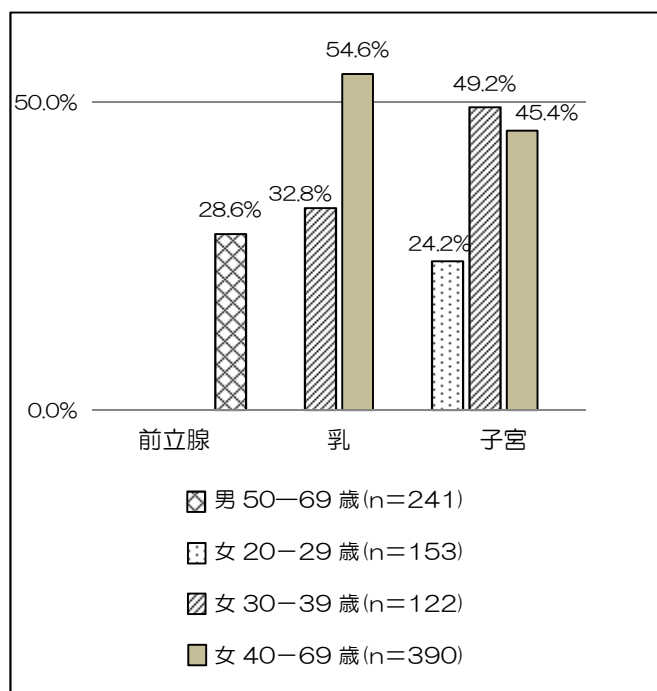


図14-2 がん検診を1年以内に受けた人の割合（前立腺・乳・子宮がん検診）



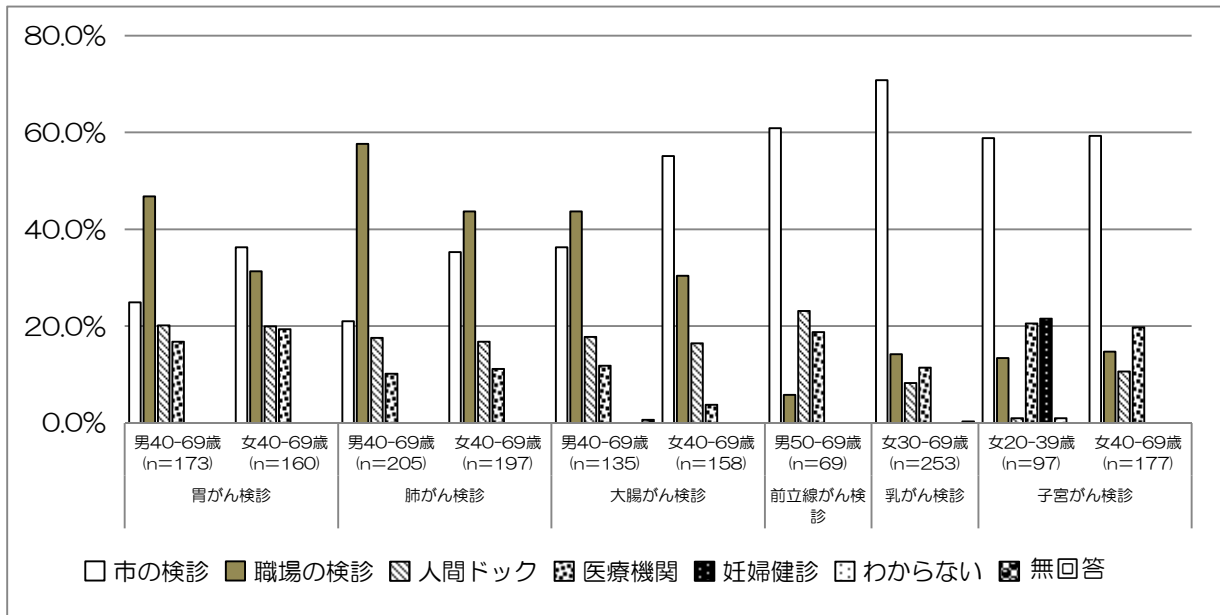
#### ②がん検診を受けた場所

各がん検診を1年以内に受けた人が、どこで受けたかをみると（図15）、男性では、胃がん検診、肺がん検診、大腸がん検診は、職場の検診で受けた人が多いですが、前立腺がん検診は、約60%の人が市の検診で受けたことがわかりました。

女性では、男性に比べ、職場より市の検診で受けている人の割合が高く、特に、乳がん検診では約70%、子宮がん検診では約60%の人が、市の検診で受けています。また、子宮がん検診を受けた20~39歳女性では、妊婦健診で受けた人が約20%いました。



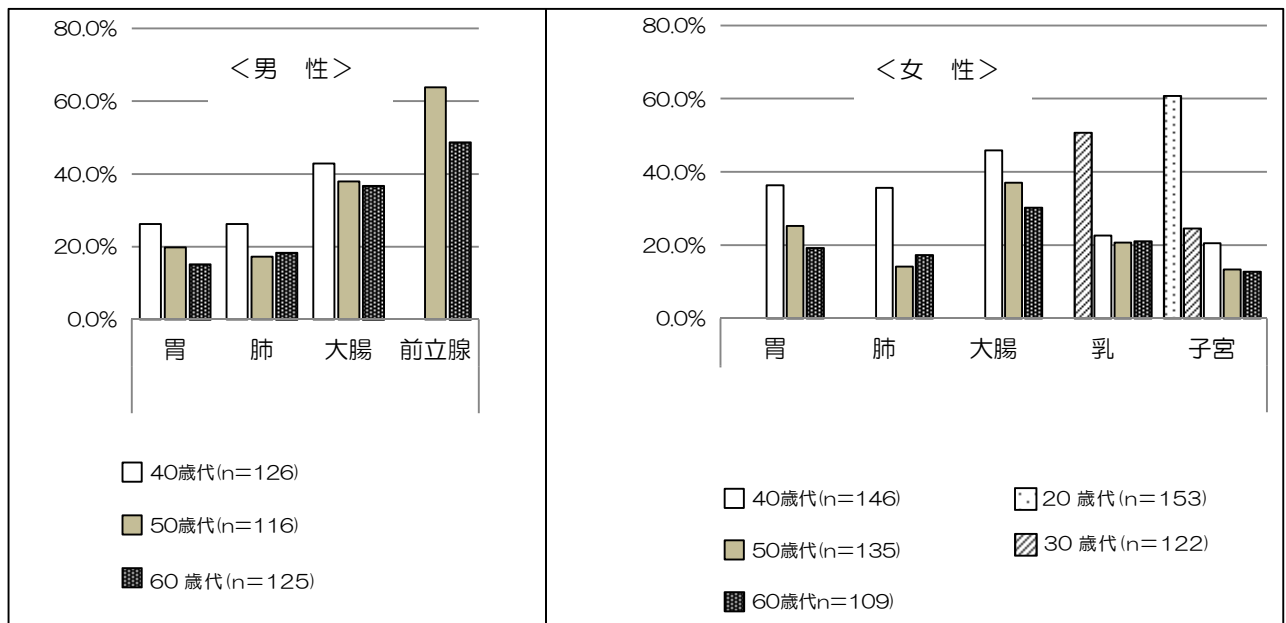
図 15 各がん検診を 1 年以内に受けた人の受けた場所（複数回答）



### ③各がん検診を受けたことがない人の割合

市のがん検診の対象年齢であるが、今までにそのがん検診を一度も受けたことがない人の割合を、性別、年代別にみると、大腸がん検診では、胃がん検診や肺がん検診に比べ、男女ともにすべての年代で受けたことのない人の割合が高く、乳がん検診では 30 歳代、子宮がん検診では 20 歳代で受けたことのない人の割合が大変高くなっています。前立腺がん検診も受けたことのない人の割合が大変高いことがわかりました（図 16）。

図 16 各がん検診を今まで受けたことがない人の割合（男女別）

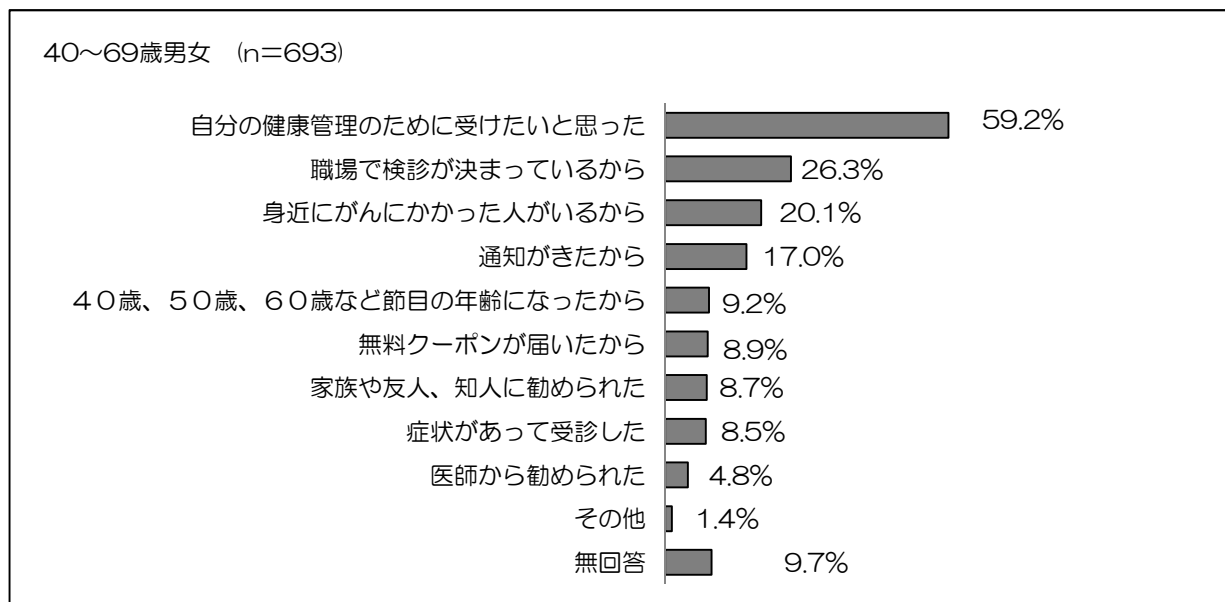


※ 前立腺がん検診は 50 歳以上、乳がん検診は 30 歳以上、子宮がん検診は 20 歳以上、その他は 40 歳以上について示しました。

#### ④がん検診を受けたことがある人の受診動機

40～69歳で、今までにひとつでもがん検診を受けたことがある人の受診動機をみると（図 17）、「自分の健康管理のために受けたいと思った」が 59.2%と最も高く、次いで「職場で検診が決まっているから」26.3%、「身近にがんにかかった人がいるから」20.1%でした。

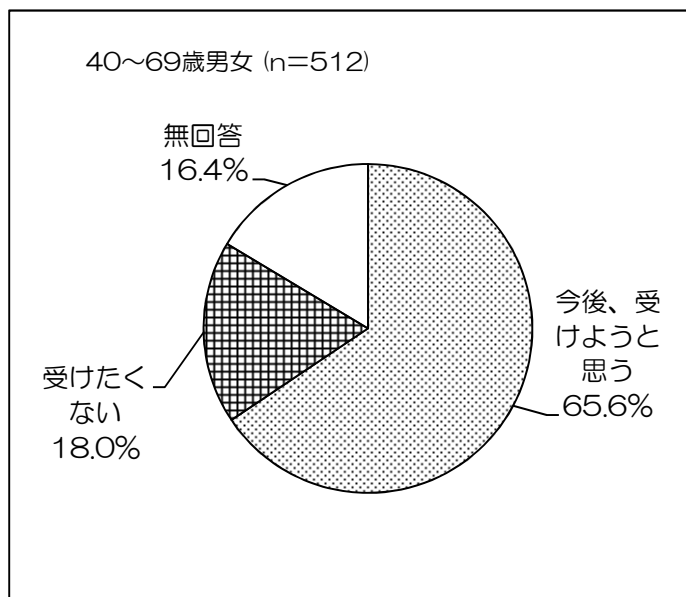
図 17 今までにひとつでもがん検診を受けたことがある人の検診受診動機（複数回答）



#### ⑤受けたことがないがん検診を受けようと思うか

40～69歳で、受けたことがないがん検診がひとつでもある人が、今後受けようと思うかについては、「今後受けようと思う」が 65.6%、「受けたくない」が 18.0%でした（図 18-1）。

図 18-1 受けたことがないがん検診を今後受けようと思うか

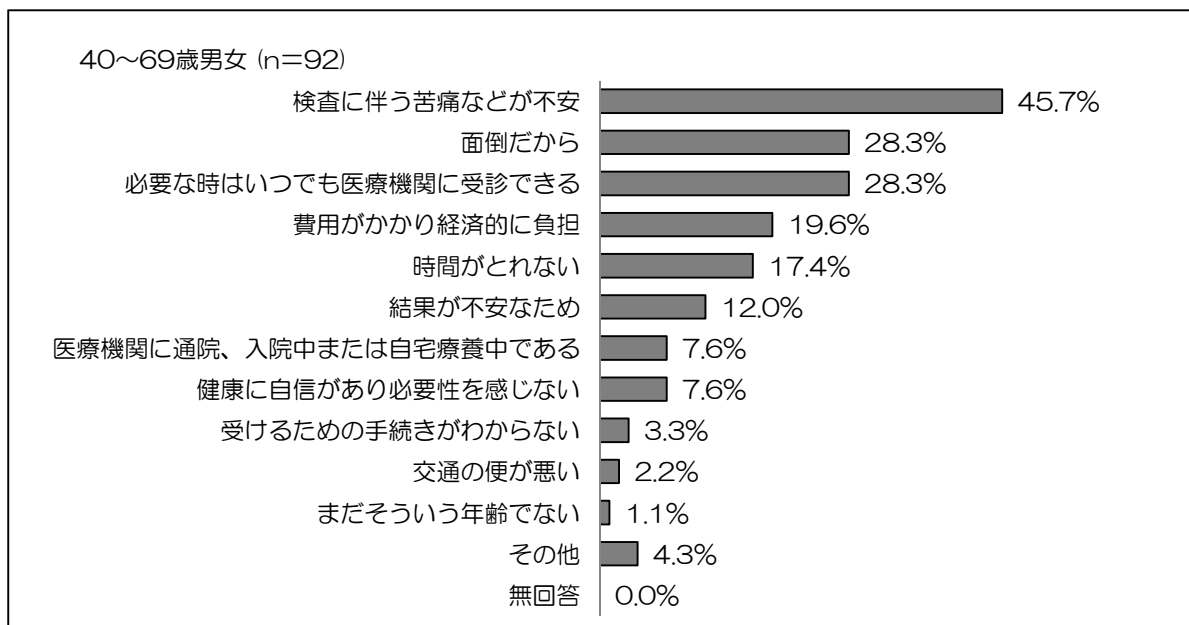


※この質問項目では、本アンケートで男性は胃・大腸・肺・前立腺（男性 40 歳代は前立腺を除く）のすべてのがん検診を、女性は胃・大腸・肺・子宮・乳のすべてのがん検診を、受けたことがある（「1 年以内に受けた」「2 年以内に受けた」「2 年以上前に受けた」のどれかに○）と答えた人を除く人について集計しました。

また、「受けたくない」と答えた人の理由については、「検査に伴う苦痛などが不安」が最も多く 45.7%、「面倒だ

から」「必要な時はいつでも医療機関に受診できる」が28.3%でした（図18-2）。

図18-2 「受けたくない」と答えた人の理由（複数回答）

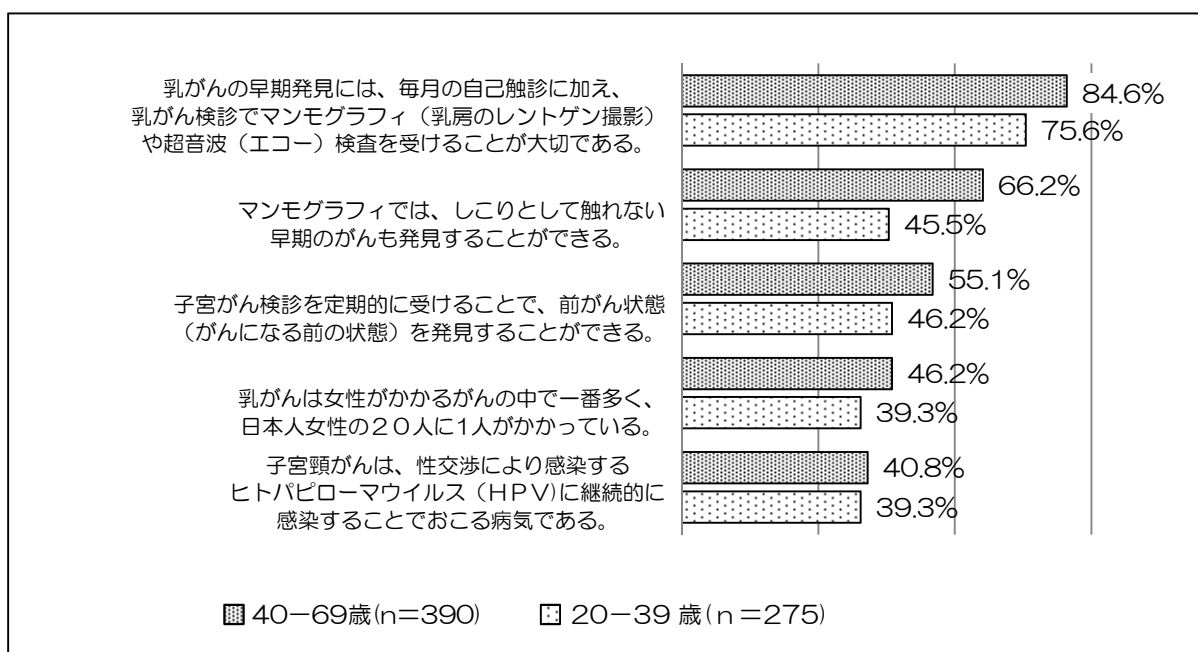


## 2) がん予防に関する事項の認知度等について

### ①子宮頸がん、乳がんに関する知識について

40～69歳女性及び20～39歳女性に、子宮頸がん、乳がんについての項目を知っているか尋ねた結果は（図19）、乳がん検診と自己触診の必要性についての項目の認知度が最も高く、それぞれ84.6%、75.6%でした。乳がん比べ、子宮頸がんに関する項目の認知度は低く、特に、子宮頸がんがヒトパピローマウイルスの感染によりおこる病気

図19 子宮頸がん、乳がんについて知っていること（複数回答）

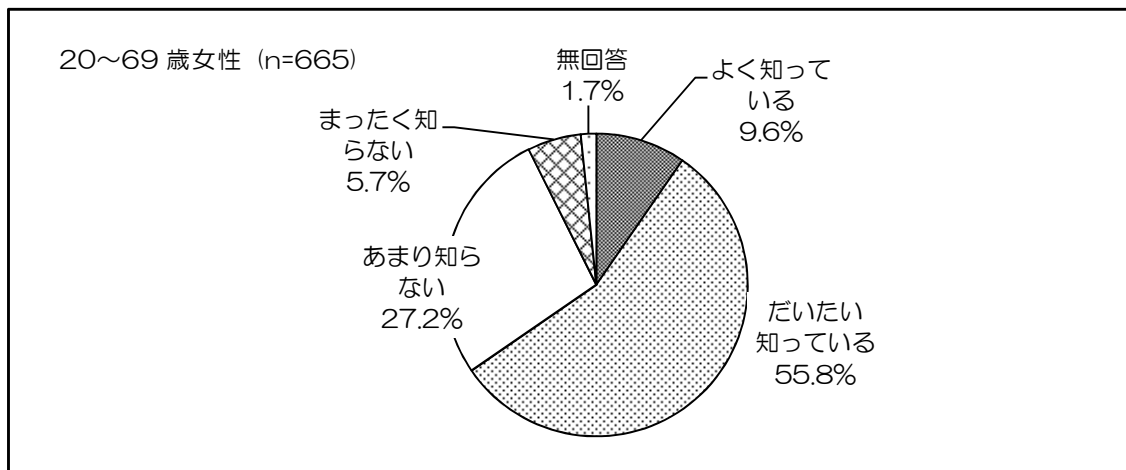


であることについて、「知っている」と答えた人は、それぞれ 40.8%、39.3%でした。

## ②乳がんの自己触診の方法について

20～69 歳の女性が、乳がんの自己触診法について知っているかは（図 20）、「よく知っている」と答えた人は 9.6%で、「だいたい知っている」と答えた人を合わせても 65.4%でした。また、「まったく知らない」と答えた人も 5.7%いました。

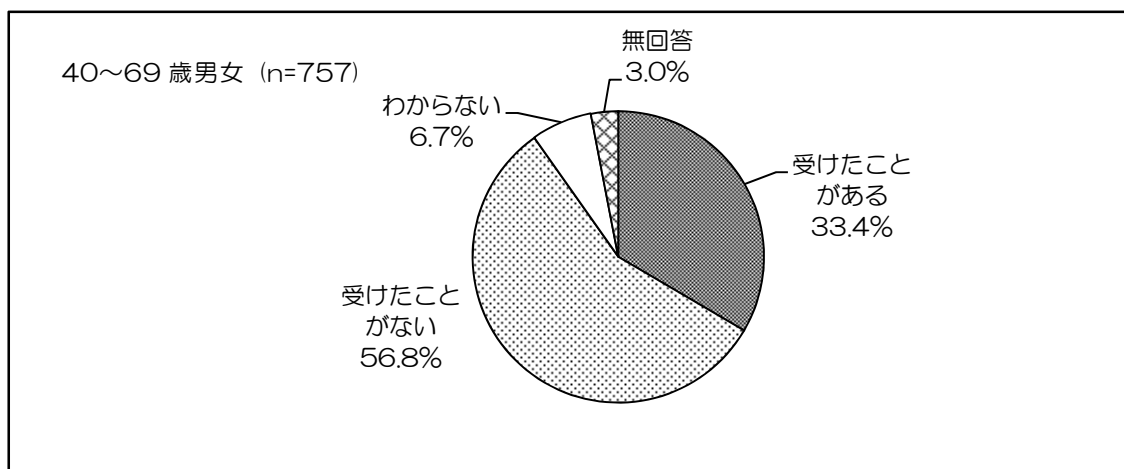
図 20 乳がんの自己触診の方法を知っているか



## ③肝炎ウイルス検査について

肝炎ウイルスの持続的な感染は、肝がんの原因として重要ですが、肝炎ウイルスに感染しているかどうかの検査を「受けたことがある」と答えた人は、33.4%でした（図 21）。市では平成 14 年度から肝炎ウイルス検査を実施し、40 歳以上の人に一度は受けることを勧めてきましたが、受診率はまだ低い状況でした。

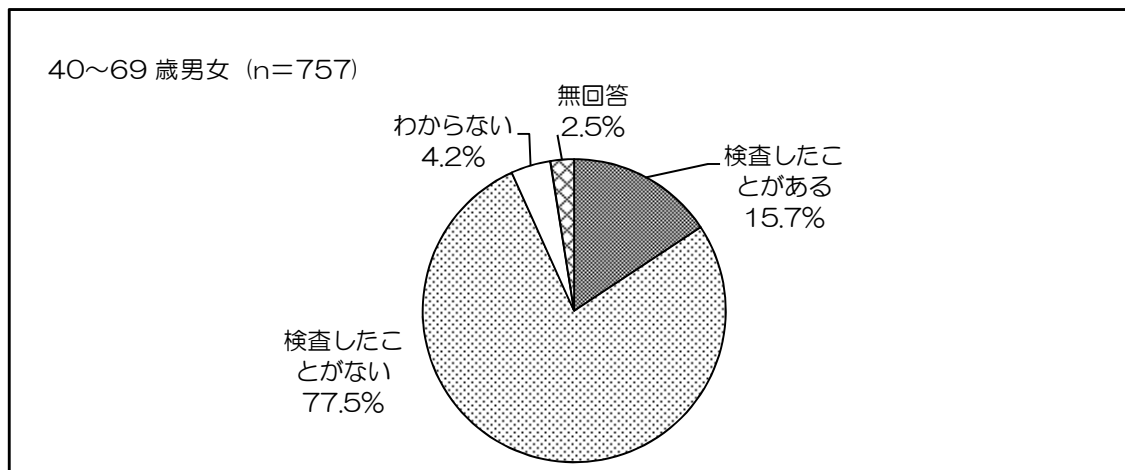
図 21 肝炎ウイルス検査を受けたことがあるか



#### ④ピロリ菌の検査について

ピロリ菌の感染は、胃がんの発生に関係があるといわれていますが、医療機関等で、ピロリ菌に感染しているかどうか検査したことがある人は、15.7%と、まだ少ない状況でした（図 22）。

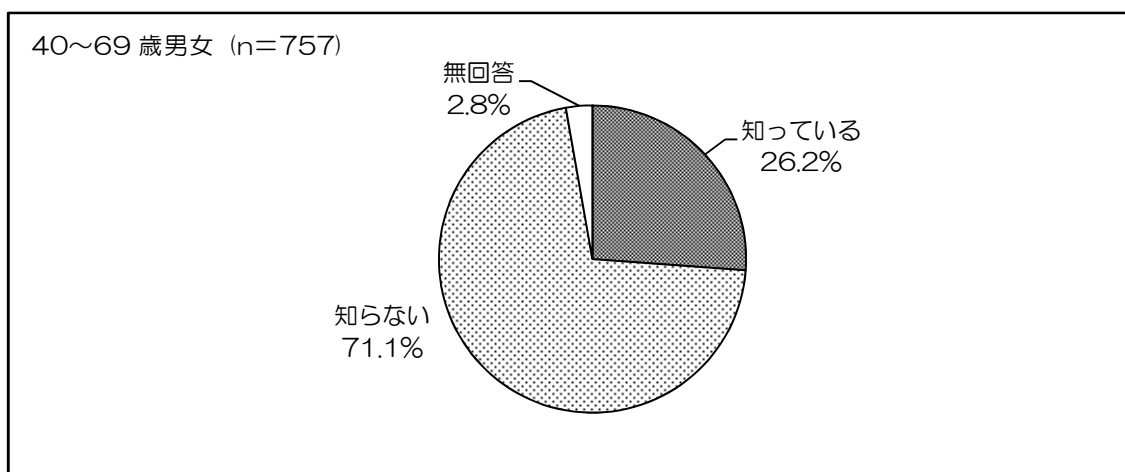
図 22 ピロリ菌に感染しているかどうか検査したことがあるか



#### ⑤口腔がんの症状についての知識について

口腔がんは、直接みることができるといわれているため、比較的発見しやすいがんであるといわれていますが、その症状について知っている人は、26.2%と低い状況でした（図 23）。

図 23 口腔がんの症状を知っているか



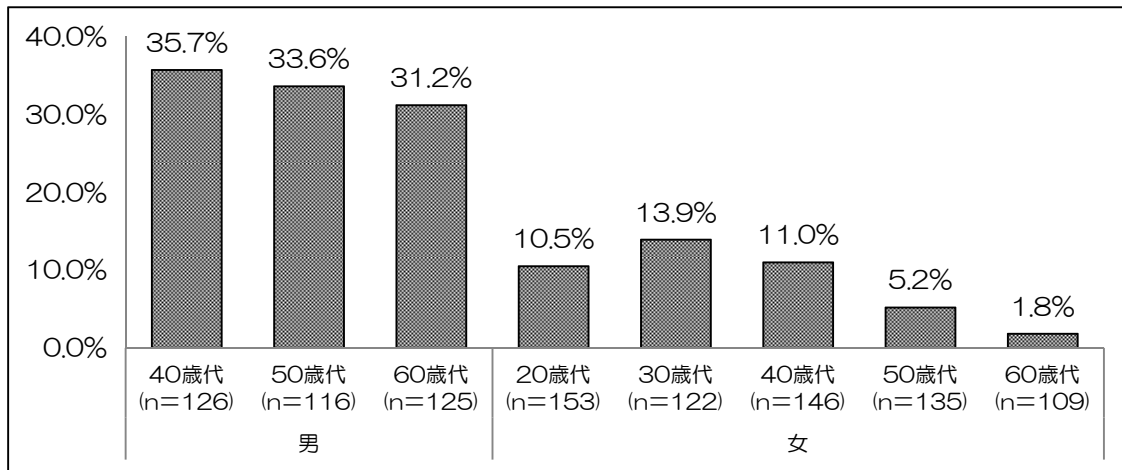
### 3) がん予防に関する生活習慣について

#### ①喫煙者の状況

喫煙は、様々ながんにかかるリスクを上げ、また、まわりの人も受動喫煙による肺がんのリスクが上がるということが指摘されています。アンケートを実施した各年代で、喫煙者の割

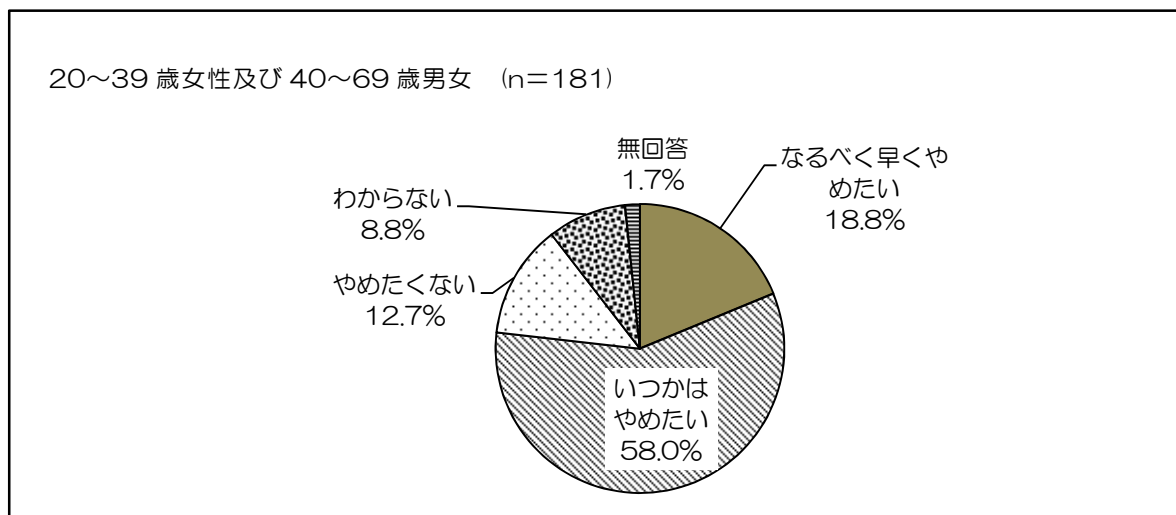
合をみると（図 24-1）、各年代とも男性は 30%台、女性では 20～40 歳代が 10%台と高いことがわかりました。

図 24-1 喫煙者の割合



また、喫煙している人に、喫煙をやめたいか尋ねた結果では、「なるべく早くやめたい」が 18.8%、「いつかはやめたい」が 58.0%であり、両方を加えると全体の 76.8%の人はやめたいと思っ

図 24-2 喫煙している人が、喫煙をやめたいか



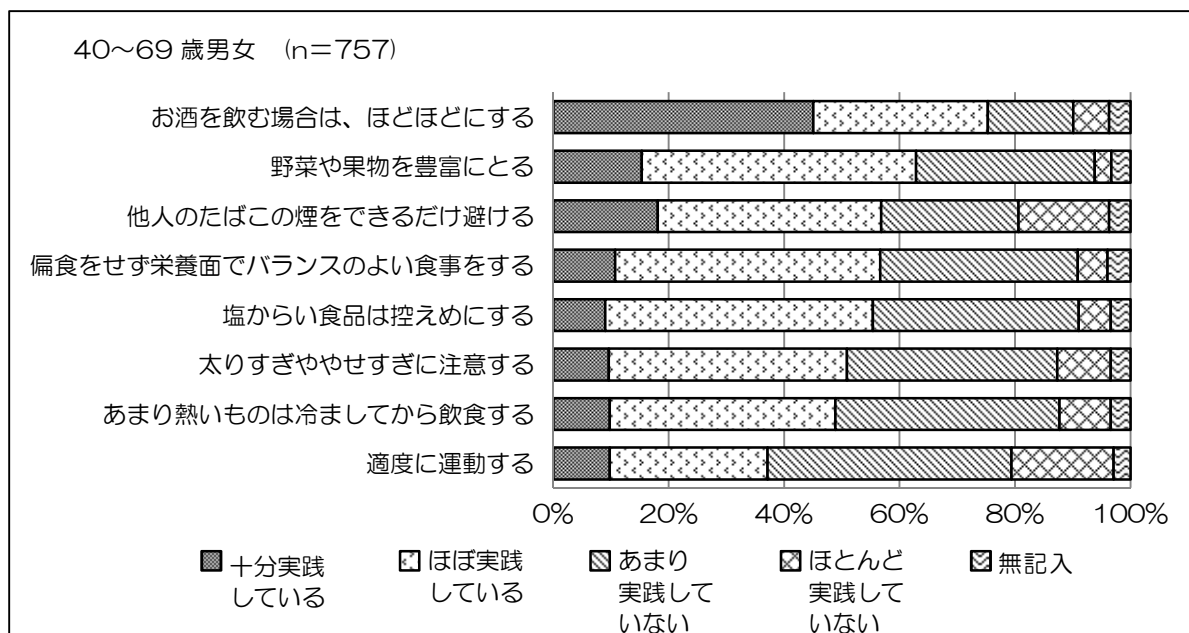
## ②がんの予防に効果があるとされている生活習慣の実践度について

科学的根拠に基づき、がんの予防に効果があるとされる生活習慣については、「がんを防ぐための新12か条」（公益財団法人 がん研究振興財団）として紹介されています。40～69 歳の方が、これらの生活習慣について、がんの予防のためと意識しているかどうかにかかわらず、実践していると思うかについては（図 25）、「十分実践している」と「ほ

ば実践している」を含めても50%前後の項目が多く、「適度に運動する」は、特に実践度が低いことがわかりました。

なお、本アンケートでは、「お酒を飲む場合は、ほどほどにする」の項目は、日頃から全くお酒を飲まない人は「十分実践している」と回答しています。

図 25 がんの予防に効果があるとされている生活習慣を実践しているか

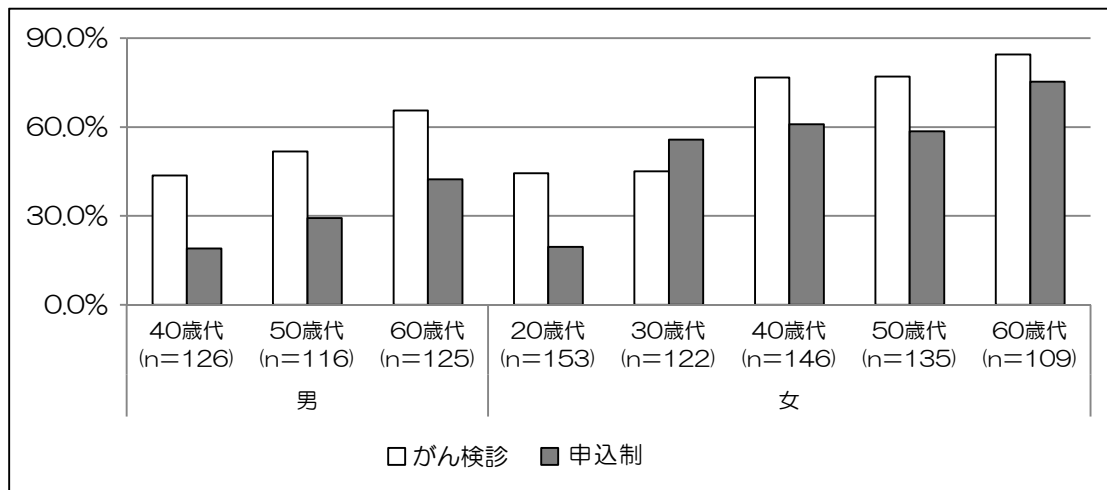


#### 4) がん検診に関する情報について

##### ①市のがん検診の情報について

市では、各種のがん検診を実施しています。また、治療中の人や職場等で受診の機会のある人を対象から除くため、申込制をとっていますが、これらのことを知っているかについては(図 26)、男性の40～60 歳代及び女性の20～30 歳代で知っている人が少ない

図 26 市のがん検診と申込制を知っているか



ことがわかりました。また、全体に、申込制について知っている人は、がん検診について知っている人より少なくなっています。

## ②市のがん検診についての情報源について

市のがん検診の情報を、どのようなところから得ているかについては（図 27）、40～69 歳の男女、20～39 歳の女性ともに、「郵送される個別通知」「広報そうさ」が大変多く、次いで「家族や友人、知人から聞く」が多くなっています。「健康カレンダー」は、10%前後で、「市のホームページ」から情報を得ている人は 1%台と大変少ないことがわかりました。

図 27 市のがん検診の情報源（複数回答）

